



イケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 595 回 県民性ジョーク

2014.9.21

小生、仕事柄、全国各地を飛び回ることが多い。

当然、個々人によって個性が豊かで、どんな人と巡り合うか、最大の楽しみでもあるが、往々にして、一種独特の県民性を感じることもある。今回はそんな「県民性の違い」を探ってみた。「目くじら立てて怒ることなかれ」、あくまで一般論のジョークである。

東京人、大阪人、名古屋人が3人で会食した。

楽しい食事が終わり会計の時、「美味しかった、ところで」…

東京人 「予算足りるかなあ」と考える。(まとめて払うことしか考えない江戸っ子の見栄)

大阪人 「割り勘でなんぼになるか」と考える。(ひとりいくらになるかなあ)

名古屋人 お礼の言葉をひたすら考える。(最初から全く払う気はない、御馳走さま)

ご出身はどこですか？と尋ねると…

東京都民「東京です」、**横浜市民**「横浜です」、**湘南原住民**「湘南です」、**神奈川県民**「神奈川県です」、**千葉県民**「千葉です」、**群馬、栃木、茨城県民**「関東です」、そして**埼玉県民**「東京です」

講演の時の注意事項！

大阪では笑いをとれなかった講演者は、二度と呼ばれない。

長野では聞いている人が理解できないくらい、難しい話しか喜ばれない。

山形では秋田をほめる話をしてはいけない。

新潟では新潟のお米をほめないと、愛想笑いしてくれない。

東京、沖縄、高知の人に宝くじが当たった。それぞれ使い道を聞いてみると

東京人「将来の為に貯金しようと思います」、**沖縄人**「みんなで宴会してパーっと使います」

高知人「飲み屋のツケで全部消えました」

大阪府民の幸福は、タイガースが優勝したとき。

香川県民の幸福は、ただただうどんを食べていられるとき。

東京都民の幸福は、地方が東京より格下であることに優越感を感じているとき。

茨城県民の幸福は、県外人に県名を「いばらき」と呼んでもらったとき。

鳥取県民の幸福は、鳥取を一発で島根と間違われなかったとき。

いやはや、ほんの冗談、息抜きコラムで「あしからずの巻」であった。 M()m